

英語コーパス研究会

March 15, 1997

JAECS Newsletter No. 16

会長 齊藤俊雄

事務局 657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学国際文化学部

西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737 E-mail: (E-mail address deleted)

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス研究会)

目次

1. 第9回例会のご案内
2. 『英語コーパス研究』第4号編集完了
3. 新入会員紹介
4. 寄贈刊行物の紹介
5. 「英語コーパス研究会」ホームページ(暫定版)開設のお知らせ
6. 事務局から

FORUM

- ◆Dr. McEnery 氏来日
- ◆Mac用コーパス処理プログラムについて
《参考》メーリングリスト Corpist について
- ◆Annotations of ICE Corpus

1. 第9回例会のご案内

英語コーパス研究会第9回例会は、4月19日(土)に同志社大学田辺校地(京都府綴喜郡田辺町<4月より京田辺市> JR学研都市線「同志社前」下車徒歩10分/近鉄京都線「興戸」下車徒歩15分)で開催されます。会場を提供して下さった同志社大学のご厚意および西納春雄先生のご尽力に感謝いたします。会場までの交通機関については同封の地図をご参照ください。JR東西線が開通し、大阪方面からのアクセスが便利になりました。

今回は、研究発表 3 件、「コロケーション」に関するシンポジウム 1 件というプログラムになりました。詳細は同封のプログラム・レジュメをご覧ください。

また、前回同様午前中にワークショップの時間を設けました。今回は、赤野一郎（京都外国語大学）・井上永幸（島根大学）両先生に、WordSmith という既製の言語処理プログラムを用いた、コーパス処理・データ分析の方法の実際について解説していただきます。コーパス（電子テキスト）は手に入れているものの、まだ十分に使いこなせていないという方、あるいはもっと高度な使い方をしたいという方のための企画です。詳細は同封のレジュメをご参照下さい。参加ご希望の方は、あらかじめ事務局あてに、電子メール・FAX・郵便でお申し込みください。先着 40 名（予定）とさせていただきます。英語コーパス研究会の会員であれば参加費は無料です（非会員の場合は 1,000 円）。

なお、昼食には学内の食堂をご利用いただけます。

詳細案内はこちらです。

目次へ

2. 『英語コーパス研究』第 4 号編集完了

機関誌第 4 号の編集作業がこのほど終了し、三月一杯に刊行の目途が立ちました。4 月 19 日の第 9 回例会当日には会員の皆様に配布できる予定です。第 4 号では、研究論文 2 篇、インターネット特集記事 4 篇、ソフトウェア紹介 2 篇が掲載されており、約 150 ページのものになりました。ご期待下さい。なお、例会ご欠席の方には後日郵送させていただきます。（編集委員会）

目次へ

3. 新入会員紹介（住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください）

小寺 正洋（聖母女学院短期大学）

(E-mail address deleted)

田久保 千之（久留米大学付設高校）

(E-mail address deleted)

[訂正]

小寺正洋先生については、事務局の手違いにより前号で掲載漏れとなっていました。お詫びして訂正します。

目次へ

4. 寄贈刊行物の紹介

英語コーパス研究会に次の刊行物の寄贈がありましたので掲載します。今後も、コーパス研究関係の著書・論文等を事務局あてにお送り下されば、逐次掲載させていただきます。

・八木克正『ネイティブの直観にせまる語法研究－現代英語への記述的アプローチ』（研究社出版 1996年）

・アンソニー・ケニイ著（吉岡健一訳）『文章の計量－文学研究のための計量文体学入門』（南雲堂 1996年）

目次へ

5. 「英語コーパス研究会」ホームページ（暫定版）開設のお知らせ

英語コーパス研究会のホームページを作成し、試験稼働しています（URLは ../index.html）。メニューとして、研究会の沿革、掲示板、ニューズレター、『英語コーパス研究』の目次とアブストラクト、電子会議室情報、書評、文献覧などを設けました。コーパス研究に関する情報の集積と交換場所になることを目指しています。メニューやページの構成、内容に関してのコメントをお願いいたします。また、会員の皆様からの情報提供により、このサイト独自の情報を提供していこうと考えています。よろしくご協力ください。

西納春雄

目次へ

6. 事務局から

◇「学会化」について

JA ECS Newsletter No.15でお知らせしましたように、本年4月からの「学会化」に向けて準備中です。運営委員会で議論を重ねた上で、原案を作成し、次回例会時の総会に諮ることになります。この問題に関してご意見がありましたら、事務局までお寄せください。

◇会費納入のお願い

1996 年度会費未納の会員の方には、郵便振替用紙を同封しておりますので、会費の納入をお願いします。年会費は、一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円です。住所・所属等に変更・異動のある方は、お忘れなく通信欄にお書き添えください。

目次へ

FORUM

◆Dr. McEnery 氏来日

Corpus Linguistics (Edinburgh University Press, 1996)の共著者の一人として知られる Lancaster 大学講師 Dr. Mark Anthony McEnery は、1997 年 1 月から 3 月までの 3 か月間東北大学に滞在した。今回の来日は高度化推進経費による外国人研究員として東北大学文学部言語交流学講座が招いたものだが、いくつかの偶然が作用して急遽決まったというのがむしろ正しい。教官と大学院生を対象に数度の講義を行うほかは特に義務のない恵まれた条件で、研究活動に集中していただけた。目に見える形での成果は WWW を利用したコーパス言語学の遠隔教育の試みで、東北大学文学部言語学研究室の Web ページ内に McEnery & Wilson's Corpus Linguistics (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/corpus1/index.htm>)として実現された。練習問題のページもあるので、ご利用の上、McEnery 氏に感想をフィードバックしていただけるとありがたい。

McEnery 氏は R. Garside および G. Leech との共編で今年 Longman から Corpus Annotation と題する本を出版予定である。校正刷りを拝見することができたが、Lancaster 大学の UCREL (University Centre for Computer Corpus Research on Language) のメンバーを中心とする執筆者による corpus annotation に関するこれまでの成果の総まとめであって、これが彼の周辺での現在の関心の中心であると思われた。彼が 2 月 21 日に東京大学に招かれて行ったトークも Corpus Annotation at Lancaster と題されていた。これに関連して、日英など多言語のコーパスの研究開発も念頭においているとのことである。彼は気さくな人柄で、多くのことがスムーズに運んだ。彼との話のなかでは常に、具体的なコーパスの取り扱いに先だってコーパスを使う意義についての深い方法論的な考察があることが明瞭にうかがわれ、これが私には印象的であった。

後藤 斉 (東北大学文学部 (E-mail address deleted))

目次へ

◆Mac 用コーパス処理プログラムについて

最近、Mac をとりまくコーパス利用のためのソフトの所在を **Corpist** でお伺いしたところ、会員の先生方（田畑・中・杉浦先生）より貴重な情報を頂きましたのでここにいくつかご報告いたします。 ご協力ありがとうございました。

1. Conc

コンコーダンスプログラムだが、多彩な機能を持っており、かなり高度なテキスト処理が可能。単語の索引機能や KWIC コンコーダンスを始め、正規表現を使った検索もできるすぐれもの。入手先は以下の通り。

*<http://www.sil.org/computing/conc/conc.html>

*The ICAME CD-ROM

2. Free Text

インターフェースが使いやすいハイパーカードスタックで、テキストファイルに検索用インデックスをつけるスタックとコンコーダンスとの2つのスタックから構成されている。詳細は『英語コーパス研究』第2号もご覧下さい。

*NiftyServe FENG Lib.4

*The ICAME CD-ROM

*ICAME gopher://nora.hd.uib.no:70/11/Programs/mac

3. MonoConc

Michael Barlow 氏作成のスタックで、彼のサイトから入手できる。コロケーションをダイアグラム表示する機能が付いたコンコーダンス。

*<http://www.ruf.rice.edu/~barlow/mono.html>

4. Mac 用 awk, sed, perl

以上3つは Nifty Serve FMAPRO Lib.4 で入手可能。また、名古屋大学の杉浦先生のサイト(<http://lang.nagoya-u.ac.jp/~sugiura/>)にはこれらのツールのテキスト加工情報がいろいろあり、大変参考になります。

最後にご承知かとは存じますが SIL のサイト(<http://www.sil.org/>)には研究者向けの多くの Freeware や Shareware が OS を問わず用意されているので必見です。

吉村由佳 (慶応大学非常勤講師 (E-mail address deleted))

目次へ

《参考》 メーリングリスト Corpist について

Corpist は英語コーパス研究者の間の情報交換を目的とするメーリングリストです。メンバーは英語コーパス研究会の会員が大部分ですが、特に入会資格は定めていません。

新たに参加するためには、Subject:に **append** と書き、本体に簡単な自己紹介を記したメールを、corpist-control@ilcs.hokudai.ac.jp 宛に出して下さい。自己紹介には少なくとも氏名と所属(出来れば専門分野や研究テーマ)をお書きください。

リストへの投稿は、corpist@ilcs.hokudai.ac.jp 宛に出して下さい。なお会員以外の方からの投稿はできません。

メッセージの配送を一時的に中断したり、会員名簿や過去の投稿を取り寄せたりするコマンドが用意されています。Subject:に **help** と書いた空のメールを corpist-control@ilcs.hokudai.ac.jp に出すと、折り返しマニュアルが送られます。その他メーリングリストの管理については、管理人の園田までお問い合わせ下さい。

園田勝英 (Sonoda Katsuhide)

(E-mail address deleted)

S-mail: 〒060 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学言語文化部

phone: 011-706-5375

目次へ

◆Annotations of ICE Corpus

スウェーデンのストックホルムで 1996 年 5 月 15 日～5 月 19 日に開催された ICAME96 に参加して、帰路ロンドン大学(UCL)で Sidney Greenbaum 教授と再会した。そしてその時に 1997 年に来日して ICE コーパスの現状について講演をしていただくことの快諾をもらった。いわゆる"The Gang of Four"(A Grammar of Contemporary English, 1972; A Comprehensive Grammar of the English Language, 1985 の共著者 4 人)の中で Greenbaum 教授だけが来日の経験がなく、初来日の条件にまず Alex Fang 氏を先に来日させて様子をうかがわせることとなっていた。しかし UCL の Upper Refectory で昼食をとって再開を誓って別れてから、わずか一週間後の 5 月 28 日、モスクワ大学で講演中に急死された。出版の計画がたくさんあり急死がとても惜まれる。Greenbaum 教授の来日はかなわなくなったが遺志を継ぎ、今年の 12 月に大東文化大学で、18 の国と地域が参加している ICE コーパスの現状とテキストの Annotations について、ICE コーパスのソフトの開発者である Alex Fang 氏に講演をしてもらった。現在英国の ICE-GB がほぼ完成していて Singapore がそれに続いているらしいが、ICE コーパスで使われているプログラムは Fang 氏が開発した下記のソフトである。

a) AUTASYS (Grammatical tagging)

b) COMPAID TQUERY (Retrieving)

c) STRATA STATIST (Statistical analysis)

d) SPARSER (Syntactic/phrasal parsing)

これらのプログラムを使ってテキストを解析すると、270 を超える Tag と Feature のコンビネーションが出来上がるように作られていて、講演中に実際に Tag を付けたり Concordance を作ったりまた統計グラフを提示された。これらについての詳細は共著の論文*を参照していただきたいが、頻度のみならず(F)、予想される頻度(U)や標準頻度指数(SFD)などの数値を出したり、統語樹形が視覚的に表示されるのはとても有効である。そしてすべての ICE コーパスが完成すれば CD-ROM に収められ、Spoken と Written の World Englishes の検索がとても容易になる。ちなみにこれらのソフトは Fang 氏から直接購入可能である（価格はセットで 1,700 ポンド、分売も可；問い合わせ先は Alex@phonetics.ucl.ac.uk）。

*Fang, Alex, C. and Yamazaki, S. 1997 "The International Corpus of English and TEFL:

In Memory of Professor Sidney Greenbaum." 『大東語学教育論文集』 第 5 号

山崎俊次 (大東文化大学 (E-mail address deleted))

目次へ

Online edition of JAECS Newsletter

First created and uploaded on March 14, 1997.

Send corrections and suggestions to'

(E-mail address deleted)

英語コーパス学会

May 30, 1997

JAECS Newsletter No. 17

会長 齊藤俊雄

事務局 657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学国際文化学部

西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737 E-mail: (E-mail address deleted)

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス研究会)

目次

1. 第9回例会報告
2. 「学会化」について
3. 第10回大会の日程と研究発表者募集について
4. 『英語コーパス研究』第4号の刊行
5. 『英語コーパス研究』第5号の原稿募集
6. 新入会員紹介
7. 寄贈刊行物の紹介
8. 事務局から

FORUM

◆British National Corpus の公開近し

1. 第9回例会報告

英語コーパス研究会第9回例会は、4月19日(土)に同志社大学田辺校地で開催されました。参加者は約90名で、盛会裏に終了しました。

今回は午前中に、情報処理教室を利用してワークショップ「WordSmithを使ったコーパス検索の技法」を開きました（参加者約40名）。赤野一郎（京都外国語大学）・井上永幸（島根大学）両先生に、WordSmithという言語処理ソフトを用いた、コーパス処理・データ分析の方法について指導していただきました。参加された皆さんは熱心に取り組み、予定の時間を大幅に超過するほどでした。

マルチメディア教室を会場に行われた午後の例会では、まず総会で以前から懸案であった「学会化」について、「本年度より『英語コーパス研究会』を『英語コーパス学会』に改称する」という原案が提案され、承認されました。これについては次項で詳しくご案内します。

続いて研究発表3件とシンポジウムが行われました。会場の設備をフルに活用した発表もあり、いずれも充実した内容でした。質疑応答も活発で、熱心な議論が続きました。

開催にあたっては、会場校の西納春雄先生をはじめ同志社大学の関係者の方々に、受付事務については、今回も大阪大学大学院言語文化研究科の院生の方々に、それぞれ大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2. 「学会化」について

先日の総会で承認された内容は次の通りです。

名 称： 英語コーパス学会

Japan Association for English Corpus Studies

（英語名は現行通り）

例 会： 「大会」と改め、回数は通算。

（例）第9回例会→第9回大会

機関誌： 名称は現行通りとし、号数も通算する。

会 則： 現行を継承する。一部文言の訂正を行う。

※運営組織の整備については、さらに時間をかけて検討することになりました。

3. 第10回大会の日程と研究発表者募集について

◇1997年度秋の大会（第10回大会）は、1997年10月4日（土）午後、大東文化大学板橋校舎（東京都板橋区高島平）を会場として開催されることになりました。

◇大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便・FAX・電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】 1997年6月30日

【提出物】 題目と要旨（400～800字程度）

【内容】 本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】 7月中旬（予定）

【その他】 1. 時間 発表30分+質疑応答10分

2. 資格 本学会会員であること

◇次回大会では、Alex C.

Fang氏(UCL)の言語分析ソフトを使ったコーパス検索実習をワークショップとして計画しています。詳細については、次号のニューズレターでご案内します。

4. 『英語コーパス研究』第4号の刊行

機関誌『英語コーパス研究』第4号が3月末に完成し、第9回大会会場にて会員に配付されました。発送経費の関係で、当日欠席の会員にはこのニューズレターとともに送らせていただきました。悪しからずご了承ください。

5. 『英語コーパス研究』第5号の原稿募集

『英語コーパス研究』第5号の原稿を次の要領で募集します。積極的なご投稿をお待ちし

ております。

【原稿の種類】

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究論文、研究ノート。
2. コーパス紹介、ソフト紹介、書評、その他コーパス研究に有益な情報。

【投稿申込締切】 6月30日(月)(氏名、所属、原稿の種類とタイトルをお知らせください。)

【原稿提出締切】 9月30日(火)(ハードコピー4部提出。フロッピーディスクは採用決定後に提出。)

【原稿の長さ】

研究論文は35字×30行×15枚以内(和文)、70ストローク×35行×15枚以内(英文)。いずれも、Abstract(英文)、注、書誌を含む。研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の半分以下。

【書式】 第4号所収の論文を参考にしてください。

【採否通知】 11月中旬

【刊行予定】 1998年3月25日

6. 新入会員紹介(住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JAECS Newsletter

No.16 発行以降の新入会員の方々は次の通りです(5月15日現在、敬称略)。

- ・新井恭子(学習院大学大学院)(E-mail address deleted)
- ・飯塚 利昭(大修館書店)(E-mail address deleted)

- ・尾崎 久男 (関西外国語大学)
- ・川瀬 孟俊 (明治大学付属明治高等学校) (E-mail address deleted)
- ・佐藤 東悟
- ・鳥越 秀知 (詫間電波工業高等専門学校) (E-mail address deleted)
- ・名木田 恵理子 (川崎医療短期大学) (E-mail address deleted)
- ・能登原 昭夫 (山陽学園大学)
- ・船本 弘史 (同志社大学大学院) (E-mail address deleted)
- ・松本 祥仁 ((有) エムシイエス) (E-mail address deleted)
- ・山内 信幸 (同志社大学) (E-mail address deleted)
- ・祐伯 敦史 (同志社大学大学院) (E-mail address deleted)

7. 寄贈刊行物の紹介

JAECS Newsletter

No.16 以降、本学会に次の刊行物の寄贈がありましたので、掲載させていただきます。今後もコーパス研究関連の論文等を事務局宛てお送りくだされば、逐次掲載させていただきます。

- ・須賀 廣・鷹家秀史「インターネットを利用した米語データベースの作成と英語教育への利用—90年代の口語体・文章体に見るアメリカ英語の語法—」 『岡山朝日研究紀要』 18号 1997年.
- ・Sophia Linguistica, Vols. 39 & 40. 上智大学 1997年.
- ・『英語教育と英語研究』 第14号 島根大学教育学部英語教育研究室 1997年.

・村山 皓・赤野一郎編『大学生活のためのコンピュータリテラシー・ブック』 オーム社
1997年.

・ヘルシンキコーパス研究グループ『コンピュータコーパスを利用した英語発達史研究』(平成8年度科学研究費補助金研究成果報告書) 1997年.

8. 事務局から

(1)1996年度会計報告

1996年度の決算報告は別紙の通りで、総会にて承認されました。

(2)運営委員の交代

以下の通り総会に提案し、承認されました。

退任：正保富三 吉村由佳

新任：西納春雄 大津智彦 山崎俊次

※その他の運営委員は留任

任期は平成9年4月1日から平成10年3月31日までの2年間。

(3)ホームページ公式化

西納春雄運営委員のご尽力により、これまで試験運用しておりました英語コーパス研究会のホームページ(../index.html)を、本年度からの学会化にあわせて公式化することになりました。今後、「ホームページ管理委員会(仮称)」といった組織を作り、ホームページの内容を充実させていきたいと考えております。会員の皆様からも、有益な情報を提供していただきたいと考えておりますので、よろしくご協力ください。

(4)会員名簿について

本年度版の会員名簿を第9回大会当日に配付しましたが、訂正、その後の会員増等がありましたので、5月15日付で訂正版を作成し、今回同封しております。

今後とも、住所・所属の変更等がありましたら、必ず事務局宛てにお送りください。

(5) アンケートのお願い

学会事務の簡素化・ペーパーレス化を図ることがどの程度可能かを知るために、会員の皆様のコンピュータ・ネットワーク利用状況をアンケートの形で調査させていただきたいと思っております。ご協力をお願いします。同封のアンケート用紙にご記入の上、郵便か FAX にて事務局宛てにご回答ください。恐れ入りますが、返信のための通信費は各自ご負担ください。なお、事務局で電子メールのアドレスを把握している会員には、近日中に同じものを電子メールにて送信いたしますので、ご利用ください。

(6) 会費納入のお願い

本年度会費未納の方には、郵便振替用紙を同封しておりますので、会費の納入をお願いします。年会費は、一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円です。

2 年連続で会費の納入のない会員にはニューズレターの送付中止等の措置を取らせていただいております。どうぞ会費の納入をお忘れになりませんようお願いいたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

◆ British National Corpus の公開近し

今日、インターネット上で概要を知る程に(<http://info.ox.ac.uk/bnc>)、その魅力を益々感じさせる BNC も、EU 圏外の公開が迫りつつあります。

実際、BNC の入手については以下の制約がありました(<http://info.ox.ac.uk/bnc/access.html>)。"Whichever method you choose, you must first sign a licence agreement. Also, at present, we regret that the BNC cannot be distributed outside Europe."

私事で恐縮ですが、平成 7 年にマンチェスター理工科大学(UMIST)言語学科に留学中に学部の許可を得て、CD-ROM 版を入手し、帰国後ささやかな希望を託して、使用継続許可

を求めました (Dr Claire Warwick, Resource Development Officer(E-mail address deleted)k)。

予想どおりの返事でありました。"You are only allowed to carry on using the BNC whilst you are actually studying at UMIST, and not once you get back to Japan.... At present the commercial members of the consortium are insisting that access to the BNC should be restricted."

しかしながら、次の文面から、学術的立場の Dr Warwick は EU 圏外の公開の可能性をほのめかしていることがうかがえます。"If you could describe in as much detail as possible why you need the BNC and what kind of research you would use it for, this will help our case."

そのような中、齊藤俊雄先生が Corpora の次の要請を Corpist に流されたことは皆さんの記憶には新しいところでしょう。"We hope that by presenting a collection of such emails or letters we may be able to persuade the commercial members of the consortium to widen access to the Corpus. The more reasonable argument we can muster, the stronger we can make our case."

現在、最新の情報は以下のものです

(<http://www.comp.lancs.ac.uk/computing/research/ucrel/public/0654.html>)。"In principle, the Committee was willing for the BNC to be made available worldwide for scholarly research purposes only, and it was agreed to revise the current licensing procedures so as to facilitate this, subject to approval from the DTI and establishment of procedures satisfactory to all partners in the BNC Consortium....We hope to make further announcements about this matter by the beginning of June."

したがって、みなさんがこの記事を読んでいる頃には、新たな展開がありそうです。ちなみに、CD-ROM 版はお手元の Windows と 2MB 程度の空き容量があれば、十分活用できます。

高橋 薫 (豊田工業高等専門学校 (E-mail address deleted))

英語コーパス学会

September 1, 1997

JAECS Newsletter No. 18

会長 齊藤俊雄

事務局 657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学国際文化学部

西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス研究会)

目次

1. 第10回大会のご案内
2. 編集委員会からのお知らせ
3. 新入会員紹介
4. 事務局から

◆ 報告

1. 第10回大会のご案内

英語コーパス学会第10回大会は、10月4日(土)に大東文化大学板橋校舎(東京都板橋区高島平1-9-1 地下鉄都営三田線「西台駅」下車 徒歩10分/東武東上線「東武練馬駅」下車 スクールバス利用約5分)で開催されます。

今回初めて、関西地区以外での開催となります。会場を提供して下さった大東文化大学のご厚意および山崎俊次運営委員のご尽力に感謝いたします。会場までの交通機関については同封の地図およびスクールバス時刻表をご覧ください。

今回は研究発表2件、およびシンポジウムが1件というプログラムとなりました。

シンポジウムは、コーパス言語学の領域で活躍されている Jan Svartvik, Graeme Kennedy, Manfred Markus の 3 氏を講師に、「コーパス言語学の歴史と現状」というテーマで行われます。詳細は同封のプログラム・レジュメに譲りますが、コーパス言語学に対する理解を深めるのに絶好の機会になると思われまます。多数の会員のご参加を期待いたしております。

なお、講師に予定しておりました Alex Fang 氏(UCL)は、諸般の事情により来日の見込みが立たなくなりました。ご了承ください。

今回もまた午前中にワークショップの時間を設けました。JAECS Newsletter No.17 では、「Alex Fang 氏開発のソフトを利用したコーパス検索実習」と告知しましたが、Fang 氏の来日が不可能になりましたので、急遽塚本聡氏（日本大学）に「はじめてのコンピュータコーパス」と題するワークショップをお願いすることになりました。

塚本氏は KWIC Concordance for Windows の開発者で、今回は同ソフトを利用した、「初心者向け」コーパス検索・分析の実習です。開発者ご自身に解説していただきますので、中身の濃い、充実したワークショップが期待できそうです。参加ご希望の方は、あらかじめ事務局あてに、電子メール・FAX・郵便でお申し込みください。定員は 30 名(先着順)とさせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は 1,000 円)。

大会終了後、懇親会を予定しておりますのでこちらの方にも多数ご参加ください。なお、会場準備の都合上、研究発表・シンポジウム、懇親会に参加ご希望の方は 9 月 25 日までに事務局宛てに、郵便・FAX・電子メールにて必ずご連絡ください。

2. 編集委員会からのお知らせ

◇『英語コーパス研究』第 5 号に多数の投稿申し込みをいただき、ありがとうございました。原稿提出の締め切りは 9 月 30 日となっております。昨年同様、投稿申し込みをされなかった方からの原稿提出も受け付けておりますので、ふるってご投稿ください。

投稿要領については、JAECS Newsletter No.17 をご覧ください。なお、投稿要領・スタイルシートは次の URL でもご覧いただけますのでご利用ください。

投稿要領： <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/call4paper.html>

スタイルシート : <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/style.html>

◇今回から、投稿原稿の送付先を次の通り変更いたします。ご注意ください。

560 豊中市待兼山町 1-8 大阪大学言語文化部 田畑智司宛て

3. 新入会員紹介 (住所・電話番号は、郵送されるニュースレターをご参照ください)

JAECs Newsletter No.17 発行以降の新入会員の方は次の通りです(8月6日現在、敬称略)。

- ・ 赤瀬川 史朗 (赤瀬川翻訳事務所) (E-mail address deleted)
- ・ 飯島 睦美 (松江工業高等専門学校) (E-mail address deleted)
- ・ 染谷 泰正 (東京大学大学院生) (E-mail address deleted)
- ・ 田口 純 (筑紫女学園短期大学) (E-mail address deleted)

[訂正] JAECs Newsletter No.17 で以下のような誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- ・ 新井恭子(学習院大学大学院生) (E-mail address deleted)

4. 事務局から

(1)アンケートの結果について

学会事務の簡素化・ペーパーレス化を図ることがどの程度可能かを知るために、会員の皆様のコンピュータ・ネットワーク利用状況をアンケート調査いたしましたところ、68名の会員の方から回答をいただきました。アンケート用紙をJAECs Newsletter No.17に同封するとともに、事務局で電子メールアドレスを把握している会員の方には電子メールでもお送りしましたところ、55名(約80%)の方から電子メールによる返信がありました。

アンケートの結果ですが、約95%の方から、パソコン通信やインターネット、日常的に電子メールを利用していると回答がありました。また、メーリングリストのCorpistに加入されている方、また英語コーパス学会のホームページにアクセスしたことのある方はともに

約 65%でした。

ペーパーレス化については、「賛成」が約 57%、「賛成だが郵送も残すべき」が約 35%でした。今回皆様から寄せられた貴重なご意見をもとに、今後運営委員会で検討していきたいと思っております。ご協力どうもありがとうございました。

(2)会費納入のお願い

本年度会費未納の会員の方は、郵便振替にてお納めください(口座番号:00940-5-250586 英語コーパス学会)。

年会費は一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円です。住所・所属等に変更のある方は、通信欄にお書き添えください。

(3)その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。また、FORUM 欄への投稿もお待ちしております。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆報告

ICAME 97

リバプール大学の主催で古都チェスターにて ICAME 97(The 18th International ICAME Conference in Chester, May 21-25 1997)が開催された。とても古い建物の Hotel Queen に 98 名の参加者が集まり盛会であった。はじめに昨年 5 月にモスクワ大学で急逝された、故 Prof Sidney Greenbaum への Dedication があり、深い悲しみと無念さに包まれた。昨年の ICAME 96 (ストックホルム大学) の後、Prof Greenbaum が筆者をロンドン大学に招待してくれ、International Corpus of English (ICE)について説明してくれた。その席で"The Gang of Four"の中でただ 1 人来日の経験がない Prof Greenbaum に来日して講演してくれるように依頼したら快諾してくれた。しかしその後すぐ他界されたのでとても驚きと悲しみを禁じえない。

5日間の会議では、コーパスを基礎とした研究発表や、利用価値の高い BNC の分析とその BNC へのアクセスの問題とソフトの未開発を訴える人が多かったことが印象に残る。

以下に今回の ICAME 97 のポイントを列挙し、報告としたい。

Main issues and areas:

1. BNC --- access and software problems
2. Parallel corpora (translation research)
3. Importance of spoken English research
4. New, smaller specialized corpora (COLT)
5. Importance of lexical studies
6. Diachronic studies of corpora
7. National varieties

昨年の反省から、全員が参加できるように **Parallel Session** を避けたので、多数の発表希望者に **Poster Session** にまわるか発表を取り止めるか尋ねるなど、主催者はプログラム作成に苦勞しているようであった。そしてその **Poster Session** には 12 組の発表者が集まり活発な意見交換がされた。筆者も "Adj+Noun Recurring Patterns" の発表の機会を得て貴重な示唆と意見をもらい、意義深かった。次回は北アイルランドのベルファストで 1998 年 5 月に開催の予定である。

山崎俊次 (大東文化大学 (E-mail address deleted))

英語コーパス学会

November 15, 1997

JAECS Newsletter No. 19

会長 齊藤俊雄

事務局 657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学国際文化学部 西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737 E-mail: (E-Mail address deleted)

URL ../index.htm

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

目次

1. 第10回大会報告
2. 第11回大会の日程と研究発表者募集について
3. 新入会員紹介
4. 寄贈刊行物の紹介
5. 事務局から
 - (1) 「名誉会員制度について」
 - (2) 会費納入のお願い
 - (3) その他
6. FORUM

Svartiv, Kennedy 先生からのメッセージ

British National Corpus 続報

COBUILD 大量リストラの衝撃

シンポジウム「英語英文学研究とコンピュータの利用」報告

1. 第 10 回大会報告

英語コーパス学会第 10 回大会は、10 月 4 日(土)に大東文化大学(板橋校舎)で開催されました。天候にはあまり恵まれませんでした。約 70 名の参加者がありました。午前中のワークショップ《はじめてのコンピュータコーパス》では、塚本聡先生(日本大学)による KWIC Concordance for Windows を利用した、「初心者向け」コーパス検索・分析実習が行なわれました。同ソフトの開発者でもある塚本先生の懇切丁寧な解説のもと、参加された方々は熱心にコンピュータに向かっておられました。午後の大会は、研究発表 2 件、帰朝報告 1 件、講演 2 件というプログラムでした。今回、山崎俊次先生(大東文化大学)のご尽力により、コーパス言語学者として著名な、Jan Svartvik, Graeme Kennedy 両先生を講演者にお迎えすることができたことは、まことに幸運でした。第一線で活躍中のお 2 人のお話に、皆さん熱心に耳を傾けておられました。大会開催にあたっては、山崎俊次運営委員をはじめ大東文化大学の関係者の方々に多大のお世話になりました。また、受付に必要な書類等は今回も大阪大学大学院言語文化研究科の大学院生の方々に用意していただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。最後になりましたが、今大会では急なプログラムの変更など、運営面でいくつかの不手際があり、会員各位にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びいたします。これを教訓に今後よりよい大会運営に努めたいと思います。

2. 第 11 回大会の日程と研究発表者募集について

◇1998 年度春の大会(第 11 回大会)は、1998 年 4 月 18 日(土)に、大手前女子短期大学(兵庫県伊丹市)を会場として開催されることになりました。

◇大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便・FAX・電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】 1997 年 12 月 15 日(月)

【提出物】 題目と要旨(400~800 字程度)

【内 容】 本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究
【採否決定】 1998 年 1 月上旬(予定)

【その他】

1. 時間 発表 30 分+質疑応答 10 分

2. 資格 本学会会員であること ◇次回大会でも、情報処理教室を利用したワークショップを行うことを計画しています。具体的な内容については、次号の Newsletter でご案内します。

3. 新入会員紹介 (住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JAECS Newsletter No.18 発行以降の新入会員の方は次の通りです (11 月 5 日現在、敬称略)。

・河田徳二 (慶応大学)

・研究社出版 (株) (小酒井雄介)

・久保田俊彦 (明治大学) (E-Mail address deleted)

・柴田純子 (岐阜工業高等専門学校) (E-Mail address deleted)

・塚本倫久 (愛知大学) (E-Mail address deleted)

・東京書籍 (株) (富田浩司・水島孝司)

・投野由紀夫 (東京学芸大学) (E-Mail address deleted)

・柳沼 豊 (研究社出版 (株)) (E-Mail address deleted)

・山崎 聡 (千葉商科大学) (E-Mail address deleted)

・Yoneoka, Judy (熊本学園大学) (E-Mail address deleted)

4. 寄贈刊行物の紹介

英語コーパス学会に次の刊行物の寄贈がありましたので紹介させていただきます。今後も

コーパス研究関係の論文等を事務局宛にお送りくだされば、逐次掲載させていただきます。

- ・齊藤俊雄『英語史研究の軌跡――フィロロジック的研究からコーパス言語学的研究へ――』
(英宝社 1997年)

5. 事務局から

(1)「名誉会員」制度について 10月3日(金)夕刻に行なわれました運営委員会で、齊藤俊雄会長より、「名誉会員」という資格を設け、**Svartvik, Kennedy** 両先生を名誉会員に推挙してはどうかという提案があり、全会一致で了承しました。この件は会則の変更を伴いますので、次回大会における総会でお諮りします。この件について両先生に非公式にお伝えしたところ、喜んで受けてくださるとのお返事をいただいております。

(2)会費納入のお願い 本年度会費未納の方は、郵便振替用紙を同封しておりますのでお納めください。年会費は、一般会員 4,000円、学生会員 3,000円です。行き違いとなりました場合は何卒ご容赦ください。なお、住所・所属等に変更のある方は、通信欄にお書き添え下さい。

(3)その他 事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。また、FORUM 欄への投稿もお待ちしております。

FORUM

◆Svartvik, Kennedy 両先生からのメッセージ

第10回大会の講演者、**Jan Svartvik, Graeme Kennedy** 両先生から齊藤会長に寄せられたメールの一部を転載させていただきます。

・Svartvik 先生

I also want to thank you and the Japan Association for English Corpus Studies for the invitation to address the 10th Convention, the hospitality before and after, and for the conducted tour of Osaka, Kyoto and Hiroshima which you organized. It was, all in all, a most pleasant and educational visit. In particular I want to thank the Association for making me an Honorary Member -- a privilege I treasure most highly.

I will write to those members who guided me and thank them personally for taking the time for this duty, but trust you will relay my thanks to the Association for its kindness. Since there were several questions about access to the BNC I have written to Oxford for clarification. When I get an answer I will relay it to you.

・ Kennedy 先生

Thank you very much for your kind message which awaited me when I arrived back in New Zealand. It was a great privilege to be invited to address the 10th Convention of the Japan Association for English Corpus Linguistics. I also felt greatly honoured to have been asked to be an honorary member of your Association. It would be impossible to convey to you the extent of my appreciation of the generous hospitality which Professor Svartvik and I received from members of the Association.

In the meantime, please pass on to colleagues in JAECS my very grateful thanks for a most enjoyable time in Japan, both at the Convention and afterwards.

◆British National Corpus 続報

前記 Svartvik 先生のメールの第 2 段落と関連して、11 月 6 日付けで Svartvik 先生から以下のようなメールが事務局に届きました。非常に喜ばしい知らせです。

During my visit to Japan in connection with the Annual Convention I was asked by several colleagues about access to the British National Corpus for nationalities that are not members of the European Union. Following my promise to find out I passed on the question to Lou Burnard in Oxford who has sent me the following authoritative statement which I ask you to distribute in some appropriate way to your interested members. The address to bnc-discuss is <corpora-request@lists.uib.no>.

Yours sincerely Jan Svartvik

sent: Wed, 5 Nov 1997 13:59:54 +0000 (GMT) From: Lou Burnard <(E-Mail address deleted)> To: Jan Svartvik <(E-Mail address deleted)> Subject: Re: BNC

We are waiting for confirmation from the Department of Trade and Industry that we may now proceed to distribute the BNC worldwide. Some 40 texts will have to be withdrawn from the corpus for the world edition, (because the rights holder concerned did not have world rights), but otherwise the news for your Japanese colleagues is good! (They can already use the world wide web service of course, which will continue, and which will always access the full service).

An announcement will appear on bnc-discuss, and elsewhere, as soon as we are in a position to start distribution outside Europe.

best wishes Lou Lou Burnard <http://users.ox.ac.uk/~lou>

◆COBUILD 大量リストラの衝撃

"The upheaval"-筆者への私信において、COBUILD 編集部長 Stephen Bullon は今回の事件をそう呼んだ。97年夏、編集部18人のうち、14人が1ヶ月の猶予でリストラの対象になったのである。「何かかが起きることは予想していた。しかし、ここまでとは…」というのが彼らの多くから漏れた言葉である。1997年は、必ずしも出足の悪い年ではなかった。むしろ、希望と自信に満ちた年と言っても過言ではない。95年、過酷なスケジュールの中で、フラグシップである COBUILD English Dictionary の第2版を、ライバル辞書に先駆けて完成した。翌年6月には基幹となるコーパス The Bank of English が、静かに、しかし、関係者の誇りをもってアップグレードされた。それは実に2億2千語から3億2千語という、文字通り、世界最大規模のコーパスの進化であった。

今年はそうした達成感と自信の余韻が編集部にあった。事実、その勢いで末っ子の COBUILD New Student's Dictionary(第2版)を完成させ、4月にブライトンで行われた学会 IATEFL で、若い編集員2人がその特長を熱く語った。そしてそれを満足げに見つめる重鎮 S. Bullon と G. Fox の二人の目もそこにあった。

しかし、7月にそれは通告された。残ったのは編集長 S. Bullon, コンピュータ担当 J. Clear などわずかに4名。若き編集者／執筆者はもちろん、長らく出版編集長であった G. Fox も去ることになる。理由は、COBUILD 部局の、そして HarperCollins 社全体の営業不振である。

COBUILD は、もともとはバーミンガム大学と Collins 社の共同研究として出発している。そのため、時を移さず、大学スタッフである S. Blackwell と W. Meijs が抗議のアピールをいくつかのメーリングリストに送り、この決定を再考するように求める FAX を Collins 社人事担当 Eddie Bell に出すように要請している。磐崎も本学会 10 回大会でこれを紹介するとともに、同様のアピールを行っている。

「まだ終わったわけじゃない。我々は進まなくてはならないんだ」-バーミンガムを発つ筆者に S. Bullon は静かにそう述べた。彼らの再建を切に願っている。

磐崎弘貞 (筑波大学 (E-Mail address deleted))

◆シンポジウム「英語英文学研究とコンピュータの利用」報告

10 月 25・26 日に熊本学園大学で開催された日本英文学会第 50 回九州支部大会で、「英語英文学研究とコンピュータの利用」というテーマでシンポジウムが行なわれた。シンポジウムでは、コンピュータの利用に関して、初歩的なものから高度なものまで現状を紹介し、その後、具体的な研究の事例を通して、英語英文学研究におけるコンピュータの利用の可能性と問題点を考えた。

まず、熊本学園大学の堀の司会で、英語英文学研究へのコンピュータの進出の現状が述べられ、各講師の発表に移った。最初に、比治山大学の貝嶋崇氏が、英文学の研究者にとってのインターネットの利用法について、情報収集と情報発信の手段の点から実際にインターネットにアクセスしながら説明した。また、ハイパーテキストに例をとって、文学テキストの概念や文学の受容の変化の可能性について述べた。

次に大阪大学の田畑智司氏が、コーパスに基づく文体論研究を、主に計量文体論を中心に発表した。著者推定、特定作家や作品の文体研究、言語使用域による変異の研究などをスクリーンに映し出しながら説明した。また、コンピュータによるテキスト処理のテクニカルな面として、テキストマークアップ、品詞・構文標識、検索法、簡単なプログラミングなどについて述べた。

3 番目に熊本学園大学の堀正広が、OED 第 2 版 CD-ROM 版(1992)の利用法について、初例の収集とコーパスとしての利用に関して Charles Dickens の言語研究に例を取り、ひとつの試みを行った。Kund Sorensen が Charles Dickens: Linguistic Innovator(1985)であげている OED の初例の数の不正確さと新たな Dickens の言語の特徴を指摘し、infinitely

の collocation の collocability の通時的変化を明らかにした。

最後に熊本学園大学の Judy Yoneoka 氏が、英語の論文においては、非難される文頭の **but** と **and** の使用について、e-mail によるアメリカの Writing Center の講師の回答、COBUILD の Bank of English、自分で作成したコーパスなどを使ってその是非を論じた。結論として、他のジャンルに比べて文頭の **but** と **and** の出現頻度は低いが、実際にはかなり使われていることが分かった。

堀 正広 (熊本学園大学 (E-Mail address deleted))